

## 富士信仰の多様な姿

### 東京都台東区下谷

現在の東京に相当する地域内には、およそ 60 基の富士塚が造られました。ほとんどの富士塚は 19 世紀後期に始まった急速な都市開発で失われたり原型をとどめないほど見た目を変えられたりしましたが、いくつかはもとの姿のまま現存しています。当時活動していた数多くの富士講という富士山を信仰する集団のひとつであった東講によって 1828 年に築かれたそのうちのひとつは、東京都台東区下谷の小野照崎神社の境内にあります。

下谷坂本富士は高さ 5 メートル、幅 16 メートルです。この富士塚の正面には、各合目を示す石柱までついた吉田口登山道巡礼道がミニチュアで再現されています。このように、富士塚のデザインはこの巡礼道が体現する精神世界を表しています。中腹で富士塚を取り囲むミニチュア御中道の跡も残っています。下谷坂本富士の麓には、修験道の開祖とされる役行者および古くから富士山の神の使いとされる二匹のサルの像が立っています。

下谷坂本富士は重要有形民俗文化財に指定されており、普段は一般公開されていません。しかし、毎年富士山の登山シーズンの初め、6 月 30 日と 7 月 1 日の 2 日間は、霊峰に巡礼したつもりになりたい人は誰でもこの富士塚に登ることができます。